

機械系の研究・教育体制

東北大学機械系同窓会ニュース 第11号

東北大学機械系同窓会
 〒980-8579
 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-01
 東北大学工学部機械知能・航空工学科内
 電話：(022) 795-6926
 F A X：(022) 795-6926
 E-Mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp
 tohoku.ac.jp
 ホームページ http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/
 郵便振込口座
 番号 02270-8-11176
 名称 東北大学機械系同窓会
 印刷 東北大学生協同組合

会費納入のお願い
 同窓会は、会員皆様から納入される会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します。
 ◎ 年会費 2,000円

少子化の影響を受け、多くの大学で入学志願者数の減少が続いています。特に、東北大学機械系にとっては、ハード理系(数学と物理学を重視する理系)志望の比率が理系志望者の中で減少傾向にあること、家庭、学校、社会全般で、物作り技術への理解と敬意が低下していること、地域性、などの理由でこの影響は一層顕著になっていきます。高校生達と話ししてみると、幸

いなことに、若者らしい正義感で、世のため、人のためになる仕事、人に喜んでもらえる仕事に着きたいという希望を述べます。従って、機械工学を学んだ技術者・研究者が我が国の社会で果たしている大切な役割を伝え、機械工学を通じてものづくりに、多くの人の喜びにつながることを彼らに伝え続けることが大切です。機械系オープン講義もこのための重要な機会と位置づけられています。本年度は、盛岡、仙台、東京、名古屋、富山で合計六回、各一日五講義を実施しました。AO入試での志願者増などにその成果は早速現れているようです。

もう一つ比較の早く大きな効果の得られそうなものは、女子生徒の勧誘です。幸か不幸か、機械工学に興味を示す女子生徒は、従来、非常に低い割合でした。逆に言えば、この割合を高めさえすれば、少子化による男子受験生の減少を相当程度補えることとなります。今年、女性教員による女生徒向けのオープン講義も企画されています。

この試みは二〇〇四年度から始めました。最初の年は十一月二十三日(木)と十二月十二日(日)に東北大学機械系第一講義室で実施いたしました。休日にもかかわらず、約九〇名の参加を得ました。そのうちの約四〇%が県外からの参加者、また女子学生は十七%でした。一〇〇名に達する教員を擁する東北大学機械系の活動の全体をわずか一日の講義だけでご理解頂くのは難しいのではないかと危惧していましたが、受講生達の感想(下に、その一部をご紹介します)からは、期待以上の高い評価を頂き、この試みの必要性、大切さを強く再認識させられました。

各地での開催に際しては、地元高等学校の学務日程とうまくマッチせずに、参加者が少ない会場もありましたが、優秀な高校生が多く、講師陣にかなり鋭い質問を浴びせていたようです。また、休憩時間にも非常に活発な討論が続いていました。このような試みは、単に、東北大学の機械系を知っていただく機会としてだけでなく、広く、理系進学への意欲を高めるため、あるいは機械工学だけでなく一般に数学、物理等を重視するハード理系への興味を深めるための機会としても非常に有意義であったと考えております。

来年度は、オープンキャンパスにおける研究室見学や、東北大学機械系フォーラムE-Workshop(出張研究室展示会)とジョイントさせた立体的な企画とするなど、より充実したものとしていきたいと考えております。今後とも同窓会会員の皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

清野 慧 (機械系系長)

吉田 和哉 (航空宇宙工学専攻教授)

東北大学機械系オープン講義 —理系進学を目指す受験生のために—

この試みは二〇〇四年度から始めました。最初の年は十一月二十三日(木)と十二月十二日(日)に東北大学機械系第一講義室で実施いたしました。休日にもかかわらず、約九〇名の参加を得ました。そのうちの約四〇%が県外からの参加者、また女子学生は十七%でした。一〇〇名に達する教員を擁する東北大学機械系の活動の全体をわずか一日の講義だけでご理解頂くのは難しいのではないかと危惧していましたが、受講生達の感想(下に、その一部をご紹介します)からは、期待以上の高い評価を頂き、この試みの必要性、大切さを強く再認識させられました。

二〇〇五年は、仙台のみではなく、東京(二回)、名古屋、盛岡、富山でも開催致しました。

受講者の感想コメントの一例
 ・実績のある先生方のお話を直接聞けてよかったです。
 ・最新のロボットの研究成果など普段あまり見られないようなものも見られて、とても興味深かったです。
 ・工夫があつてとてもよかったです。
 ・摩擦についての講義は魂が震えました。

・直接教授から話を聞けるといい機会はずいぶんありました。とても良い経験となりました。もっと話が聞きたかったです。今後もうつてほしい。
 ・工学の幅広さにおどろいた！今日は先生方のすばらしい話を聞いて、勉強になりました。今日感じた気持ちを信じて、夢に向かって努力したいと思つて、もっと講義の時間を長くしてほしい。大学教授と直接に話をすることができ、とても有意義な経験ができました。
 ・理解することができました。この分野もあって、大学に入ったことに少し不安を持った。しかし、航空機に大変興味があったので、詳しい話が聞けて良かったです。
 ・講義のスピードが速くて少しついていけない部分があったが、とてもおもしろく勉強になりました。また、人生の勉強になりました。
 ・飛行機についての講義を楽しみました。

厨川 常元 (ナノメカニクス専攻教授) 以上

文部科学省 科学技術振興調整費・新興分野人材養成 医療工学技術者創成のための再教育システム(REDEEM)

本学機械系では、我が国の工学研究をリードする二十一世紀COEプログラムなどが実施されてきた。従来のME分野の研究は、その訳語の一つが「医用」工学であったこと示されるように、工学技術者を医学に從属させる傾向があった。しかし、人口の純減を目前にする高齢社会の我が国で、行き詰まりつつある医学・医療を変革するためには、全く新たな取り組み、すなわち、医療を工学の手段で再編する「医療工学」が必要である。

このため、第一線の工学技術者の目を医学・医療分野に向けていただき、我が国が誇る産業技術の視点と手法を医療に適用するための基礎知識を獲得し、生身の生物を取り扱うという心理的障壁を乗り越える経験をさせる社会人再教育システムを開始した。このプログラムは、二十時間以上の必修講義(集中講義および出張講義)受講を条件に一週間二十コマの実験・実習を経験するものである。このために、文部科学省科学技術振興調整費の援助を得て、専用の講義室・e-learning施設・専用実験室を工学部キャンパスと医学部キャンパスに設置し、平成十六年度から再教育を開始した。講義は、基礎の生物学、分子細胞生物学からはいりヒトの解剖・生理学、外科・

内科・放射線などの臨床医学、そして工学(メカニクス、材料、細胞工学)の課程を含む実習は、厳密に一回に十八人の人数制限のもと、すべて受講者自身の手で哺乳動物のDNA、培養細胞を取扱い、心臓の生理実験と全身の解剖を行うというカリキュラムになっている。受講者は随時募集している。詳しくはホームページ http://www.redeem.jp を参照された。

山口 隆美 (バイオロボティクス専攻教授)



Cayley 面が使った実験道具
 模型飛行機 (主翼と尾翼→安定性の概念)
 旋回機 (風洞はまだなかった)



吉田 和哉 (航空宇宙工学専攻教授)

機械二十四年卒同期会

平成十七年度のこんばす会が平成十七年十月十八日、熱海温泉の古屋旅館で関東地区委員司会が始まった。冒頭、永眠した十五名の会員（ご夫人はうち二名）のご冥福を一同で祈った。足の手術直後にもかかわらず娘さんを同伴された大谷康さん（ご主人の大谷茂盛氏は第十六代東北大学総長。平成二年病没。心やさしきスポーツマンであつた。）の心意気に感心した。

大黒柱の加藤さんが大腸などの摘出手術のため急遽欠席された参加員一同残念がった。ひげをはやした中嶋世話人代表が温厚な語り口で「今後無理のない運営でこんばす会を末永く続けてほしい」という挨拶があった。東北地区の賣間画伯（泉展・中央展の常連）が乾杯の首頭を取ったが、この賣間氏がなんと娘さんにフルートを習い始めたとい

う好奇心には一同びっくりした。日本間の宴会で洋式とは驚いたが、足腰の衰えが顕著な身にとつて旅館の配慮はありがたかった。その上京風懐石料理が素晴らしう時間をかけて満喫した。その後中嶋蓉子さんから参加者へのプレゼントが渡された。中嶋さんが焼いてくれた見事な銘銘皿である。聞くところによると、父君はかつて小諸市立美術館長の要職にあり文化勲章授章の画家小山敬三さんであり、娘の蓉子さんが同美術館の学芸員として活躍なさっている親子鷹である。総会終了後は恒例により、有志と部屋で飲み明かしたり、清左衛門の湯につかったりして旧交を温めることになる。二日目は期待のモア美術館（Mokkei Okada Association）見学である。全山これ美術館な



ので、長大なエスカレーターのお世話になる。事前入手の美術館資料で下調べしてあるので、ポイント置いて、久方振りに美に浸ることは出来たが、奥行きは庭園の散策も楽しみたいものである。解散前の昼食会で関東地区委員からの提案で「来年のこんばす会は季節の良い五月に浅間で実施したい。ついでに家族の参加も大歓迎。」という事で一同大賛成でおひらきになった。

相澤 量 恵
(機械工学科24年卒)

機械三十年卒同期会

平成十七年五月二十八日卒業五十周年を記念して、思い出の地 松島の大観荘で二十三日目の青葉三十機友会の総会並びに懇親会を行った。

〔青葉三十機友会〕の名は勿論、昭和三十年機械科卒業に因み、平成四年の総会で規約と一緒を決めたもので、以来この名のもと毎年行っている。

当日は記念撮影を終え、十七時三十分から総会を行い、規約改定と事務局の交代を承認した小林石巻専修大学長から各人にお土産として懐かしい白松が最中を頂いた。十八時から懇親会を行った。参加人員は三十一名で内八名がご夫人で、遠くは伊勢鳥羽や京都から参加した人もいた。思えば卒業時は五十名であったが十名が鬼籍入りした。今回は久し振りに出席した、大宮司元教授のバイオリン演奏で始まり、昔話、近況の報告やらで瞬く間に過ぎ、二次会は幹事の部屋で碁を打つ者や時事問題で持論をぶつたりして楽しい時間を過ごした。

我が〔青葉三十機友会〕に付いて述べさせて頂くと組織



として、会長、事務局、幹事から成り、事務局は会員の動向を示した名簿や会合の開催の案内を提案する。特別行事は総会の承認のもとに会員に委託して行う。例えば四十周年には記念誌を発刊したが、植西会員が全面的に面倒を見てくれ実現した。幹事は原則として学生時代の名簿順で会場の設営を行うが、今まで東京で十二回、仙台で四回、関西で二回、横浜を含むその他で五回行った。

会長は出席率の高い人から選び、総会の議長。乾杯の首頭を取る。以上であるが、最近の議題は何と云っても各人の健康の動向である、どうすれば情報が得られるか、得られた事はどう対処すべきかであるが、これといった案が見付かっていない、又来年議論することと成ろう。

伊藤 茂 生
(機械工学科30年卒)

と成り、事務局、幹事から成り、事務局は会員の動向を示した名簿や会合の開催の案内を提案する。特別行事は総会の承認のもとに会員に委託して行う。例えば四十周年には記念誌を発刊したが、植西会員が全面的に面倒を見てくれ実現した。幹事は原則として学生時代の名簿順で会場の設営を行うが、今まで東京で十二回、仙台で四回、関西で二回、横浜を含むその他で五回行った。

機械三十四年卒同期会

今回の同期会は十月十六・十七日に秋保温泉 ホテルニュー水戸屋に開催されました。ここ数年は二年毎に開催されるようになっていきます。（最近では松島、作並、鬼首で開催）場所が仙台周辺に多いのは、昔の学生時代を語るには雰囲気もよし、全体を見渡すと交通の便もほとんどで、皆に何かを思い出させる共通の場所が仙台と云えるからでしょうか。今回は出席者が二十九名で存命者五十三名中五五%の出席者であった。

古希を迎えた人も数人を数え来年には平均七十歳を迎えることになりましたが、

今までの物故者は四名で生存率が高いグループであると秘かに思っています。さすがに現役らしくして人になってきてい

る方だったからでしょう。新しい人生に定着しつつある中で趣味の道が高じて（葛城）師匠に、焼き物（陶器）で日展をめざす？俳句で地域俳句会を主唱するなど、しわの深さに増して人生の深さを示す人もいます。その一人、荒井芳一君は素晴らしい湯呑みを制作して参加者全員に贈呈いただきました。

最近の東北大学では大学院課程に進む人が大半だと聞きますが、我々のクラスからは大学院に進学者はゼロでした。しかし後に大学に戻った阿部博之君はじりめ工学博士が四人となり、それぞれ大学教授の経験者となりました。高度経済成長時代の日本企業を支えた企業戦士としての役割を果たすとともに、

学長経験者を二人（東北大学阿部博之、八戸工大高橋燦吉）も輩出し、これからの日本を支える優れた技術者教育にも一役を果たしていることも自慢話としておきましょう。

十七日の朝には自由解散で仙台市内散策、知り合いを訪ねる人やゴルフに興ずる人ありでそれぞれ楽しいひと時を過ごすことになりました。

なんととはなく佐藤正樹、矢吹雅男、阿部好宏の三名が幹事となつていますが、これから、なんととはなく仙台を中心の同期会が続くことになりそうです。

阿部 好 宏
(機械工学科34年卒)

機械四十年卒同期会

「われらこそ国のいしずえ」。これは学生歌青葉もゆるこのみちのくの一節である。この言葉は若い頃は妙に空虚に響き好きになれなかった。国のいしずえという実感がどこにもなかったからである。

我々昭和四十年卒の面々は、還暦を過ぎて、ようやくこの国のいしずえという言葉を実感できる年齢になった。同期会では何度となく、学生歌青葉もゆる

このみちのくを歌っている。昭和四十年は戦後経済の高度成長期の真直中であり、鉄鋼、造船、機械の輸出が拡大したいざなぎ景気のはじめにあたる。まさに我々は、戦後の日本の発展、繁栄の基礎作り多大な貢献をした世代の一員であることには間違いない。若い世代の人が、父親の世代である昭和十年代生れの人達を評して仕事に命をかけていると言ったのを聞いたことがあるが、その通りであろう。苦労も並大抵ではなかつ

たが、仕事に打込んだという自負はある。

機械四十年卒同期会は平成二年五月二十六、二十七日に秋保温泉において第一回を開催してから、表の通り計七回開催している。卒業後四十年の節目の年に当たる第七回同期会は今年七月九日、十日に松島海岸 ホテルニュー小松・好風亭で開催した。参加者は十五名。まだ第一線で活躍している者もいるが、大多数は第一線を退いた後にボランティア的に社会や地域に対して何らかの貢献を行っている。同期会は全員浴衣に着替えてくつろいだり行ったり。幹事からの事務連絡の後、直ちに宴会に入った。宴会では、出席者各人が近況報告を行った。短い割当時間の中で、皆が生きていきと前向きな姿勢で生活している様子を清々しく語った。楽しげな印象的であった。楽しげな印象的であった。楽しげな印象的であった。楽しげな印象的であった。

あるので、どこもなく穏やかである。次回の第八回同期会は二年後の平成十九年に房総半島で開催することにした。次回からは、夫婦で同期会に出席してもよいことにした。楽しい同期会を今から楽しみにしている。

最後に、心ならずも物故者となられた同期の五名の諸兄に対し、心よりご冥福をお祈りする次第である。

関 根 英 樹
(機械工学科40年卒)



写真1



同期会は温泉にゆつくりと浸った後、全体での賑やかな宴会と久しぶりの参加者の近況報



写真2

機械四十年卒同期会開催状況

	開催年月日	開催場所	参加人数
第1回	平 2. 5. 26-27	秋保 岩沼屋	21名
第2回	平 5. 11. 20-21	仙台 宮城第一ホテル	15名
第3回	平 7. 11. 18-19	仙台 第二ワシントンホテル	14名
第4回	平 9. 11. 22-23	秋保 岩沼屋	11名
第5回	平 12. 2. 19-20	熱海 南明ホテル	17名
第6回	平 14. 6. 22-23	塩原 ホテルニュー塩原	14名
第7回	平 17. 7. 9-10	松島 ホテルニュー小松・好風亭	15名

バイオナノテクノロジー 基盤未来医工学

本COEプログラムは、本年度で四年目を迎えており、活動も定常化してきている。十四年度は立ち上げの年であり十五、十六年度のデータをもとに、これまでの主な活動とその成果を以下に紹介する。

- 1 若手研究者への研究教育支援活動
- 2 事業推進担当者による活発な研究活動

本プログラムの主たる目的の一つは、若手研究者の育成であり、中でも博士課程学生をBAとして雇用し、研究を促進させるとともにノマディックな教育および履歴学生制度を利用して自分自身の能力を引き上げることにある。また、海外からの若手研究者を積極的にPDとして雇用し、研究を推進することも大きな目的である。PA、PDの採用者はそれぞれ平成十五年度四十五名、六名、平成十六年度四十九名、八名であった。これらの若手研究者を対象に二十一年COE特別研究奨励費を給付し、研究を促進した。

海外研究拠点へ博士課程の学生を派遣するとともに共同研究を実施した。平成十五年度には二名を米国へ三ヶ月間、平成十六年度には二名を米国へ五ヶ月間派遣した。

国際会議への参加も積極的に促しており、平成十五、十六年度にはPA、PDをそれぞれ十名参加させ、研究発表とともに医工学関連の情報収集に当たった。派遣学生のうち二名が受賞した。

教育の面では、毎年度事業推進担当者（バイオリポティクス専攻教授）が、

「流動ダイナミクス 国際研究教育拠点」

流体科学研究所、工学研究科航空宇宙工学専攻、環境科学研究所環境科学専攻と共同で提出した「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」が、二十一世紀COEプログラムに採択されており、本プログラムでは、ナノスケールからメガスケールの広範な時間空間にわたる流動ダイナミクス研究の世界的拠点形成を目標としています。これまでに構築してきた流動研究の世界ネットワークを活用し、海外研究

機関に学生を派遣する「国際相互インターシッピング」等の教育プログラムと研究を推進しております。

楠瀬COE招聘教授を中心とするグループは、ソニックブームを低減した超音速複葉機の研究を進めております。流体科学研究所のスーパーコンピュータを駆使し、図に示す形状でソニックブームと抵抗を大幅に軽減できる成果が得られております。これは、このCOEが世界で初めて発

ナノテクノロジー基盤 機械科学フロンティア 研究拠点形成の概要

本プログラムの目的は、従来の機械工学における物理、化学、量子力学ならびに計算科学の役割をさらに一層深め、より基礎基盤に立ち返った機械工学、すなわち機械科学の学術領域を確立し、その最先端の研究成果を教育に反映させる国際舞台で活躍できる人材を養成しようとするものである。

特に、基礎基盤に立ち返ることの重要性を端的に表現する設計、製造、維持・保全における「科学的合理性」による安全・安心な社会を追求する基盤を構築する。ナノ領域における本質的な原理の追求を踏まえ、融合研究基盤の研究教育拠点の形成を図っている。

ダブルスパイラル研究教育プログラム及びその活動成果の普及を予定通り推進し、研究教育における学際化及び国際化を推進している。予定していた国際研究教育サテライト拠点の構築を前倒しし、米国（MIT）及びワシントン（大学）、欧州（ケンブリッジ大学）、中国（清華大学）に国際研究教育サテライト拠点を構築し、セミナー開催を含め学生の派遣、教員の交流を開

二十一世紀COEプログラム

信じたものです。

二〇〇三年に開催されたスローダイナミクス国際会議では四名のノーベル賞受賞者を招聘しました。二〇〇四年の第一回流動ダイナミクスに関する国際会議では、九ヶ国三十五名の参加があり、第二回を二〇〇五年十一月に開催し、二十一ヶ国五十三名が出席しました。今回は学生が独自運営するセッションを企画し、国際インターシッピングで派遣・受け入れた学生等が参加して情報交換を行うと共に、教員を排除した懇親会によって学生間の国際親交が益々深まると聞いております。

ナノ・原子スケールの化学反応・機械的挙動連成解析

ナノメカニクス・ナノシステム
・超微細加工
・高信頼材料設計
・高機能デバイス設計

ナノ材料強度・信頼性
・強度発現メカニズム解明
・高信頼・強度材料設計

図1 計算科学技術(量子分子動力学)の開発と融合研究基盤の確立

山重直
(流体科学研究所教授)

複葉超音速機の3次元モデルによるCFD解析

退職教授の 最終講義

平成十八年三月三十一日付をもって太田照和先生、関根英樹先生、齋藤武雄先生が定年退職を迎えられます。これに先立ち平成十八年二月二日に惜しまれつつ三人の先生方の以下の最終講義が行なわれました。

「停年退官から定年退職へ」
太田照和先生

「材料力学に魅せられて」
関根英樹先生

「教育、研究、そして人間」
齋藤武雄先生

「独創研究と十時間法則」
大学窓から四十二年、お世話になりました！
齋藤武雄先生

会場となりました機械系第一講義室には、在学生、卒業生及び教職員ら約一五〇人が詰めかけ、最後の講義に熱心に耳を傾けていました。また、最終講義の後、青葉記念会館にて謝恩祝賀会が行なわれました。卒業生、教員を中心とした参加者と三人の先生方との尽きる事のない語り合いのうちに、惜しまれつつ閉会となりました。

太田照和先生、関根英樹先生、齋藤武雄先生、長い間、本当に有難うございました。指導をお願い致します。



同窓会ニュース第11号をお届けします。東北大学の目標とする「研究センター」「世界と地域に開かれた大学」「指導的人材の養成」の実践の場として、現在機械系にて進行中の研究・教育プログラムの特集を組みました。現在も脈々と力強く続く同期会の話題とともに東北大学機械系及び同窓生のエネルギーを感じていただければ幸いです。

最後にありますが原稿の執筆にご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

(足立 幸志)

事務局より

◎事務員交代のお知らせ

機械系同窓会事務局で事務員として勤めていただきました山村哲子さんが出産及び育児のため退職されました。後任は武井康子さんです。勤務時間は山村さんと同様に、月水金の13:00~16:00です。FAXは随時受付しております。事務員交代に伴うトラブルの無いよう対応させていただきますが、皆様にご迷惑をおかけすることがあるかもしれません。何卒よろしくお願い致します。

◎同級会（同期会）ニュース

報告・記事の原稿を投稿してください。字数800~1,000文字、記念写真一葉と一緒に。封筒に原稿在中と明記のこと。送り先は機械系同窓会事務局。

◎同窓会誌にご投稿を！

テーマ自由。約2,000字。事務局にご連絡下さい。執筆要綱をお送りいたします。

◎住所変更の場合、必ず新住所をお知らせ下さい。同時に旧住所の最寄郵便局で新住所宛の回送手続きをとって下さい。

◎海外に駐在される方は、駐在先の住所をご連絡下さい。帰国後は、直ちに現住所をお知らせ下さい。

◎懐かしいお写真を事務局までお寄せ下さい。会誌、ニュースレター、ホームページに掲載させていただきます。

◎紙面の都合で、会員の訃報は同窓会誌に掲載いたします。

平成17年度通常総会予告

創立10周年となる記念すべき平成17年度通常総会、特別講演会ならびに懇親会は、平成18年5月20日（土）下記の通り東北大学機械系・知能系及び仙台国際センターにて開催されます。

創立10周年を記念し作成いたしました機械系の歴史パネル及び東北電力株式会社から寄贈され機械系入り口に設置されました火力発電用タービンの除幕式も予定されております。

また、総会に先立ちオープンハウスの現機械系の研究室公開も計画しております。多数会員のご出席をお願い致します。

記

日時：平成18年5月20日（土）
会場：東北大学機械系・知能系 第一講義室（記念式典、総会、特別講演会）
宮城県仙台市青葉区荒巻青葉6-6-01
仙台国際センター（懇親会）
宮城県仙台市青葉区青葉山（無番地）、Tel. 022-265-2211(代表)
http://www.sira.or.jp/icenter/

次第：10:00-12:30 機械系研究室見学
12:30-13:00 記念式典、除幕式（歴史パネル、火力発電用タービン）
13:00-13:40 総会
13:50-14:50 特別講演会 第1部
題目：学術分野の融合・体系化と機械工学
講師：庄子哲雄氏（機械工学科 昭和45年卒）
東北大学 理事（研究担当）
15:00-16:00 特別講演会 第2部
題目：ハーモニックドライブの開発をめぐって
講師：石川昌一氏（工業力学科 昭和21年卒）
株式会社 ハーモニックドライブシステムズ
技術顧問

16:30-18:30 懇親会（仙台国際センター 桜）
会費：8,000円（参加費6,000円、年会費2,000円）

連絡先：東北大学機械系同窓会事務局 武井康子（月・水・金13:00-16:00）
Tel/Fax: 022-795-6926、e-mail: dousou@mech.tohoku.ac.jp
http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/

編集後記